

地域活性学会 2020 年度総会

(敬称略)

司会進行：桂信太郎（本部理事／事務局長）

日時：2020年9月12日（土）12：30～13：00

会場：オンライン会員総会

次 第

1. 開会挨拶
中嶋間多 会長
2. 議長選出
3. 報告事項
2019年度活動報告
4. 審議事項
第1号議案 2019年度決算承認の件
第2号議案 2020年度予算案・事業方針案承認の件
5. 次回開催地紹介
山形県東根市／山形大学 小野浩幸教授（特別大会）
石川県金沢市／金沢星稜大学 池田幸應教授（第13回全国大会）

総会は委任状を含めて5分の1以上の出席があり、有効に成立しました。

総会上程議案は当初議案通り承認されました（事務局）。

1. 報告事項：2019 年度活動報告(前回大会以降～2020 年度総会迄)

(1) 地域活性学会の活動

地域活性学会は、

- ①地域活性化を担う専門的な人財の育成（教育）
 - ②地域活性化の理論と方法の学際的な探究（研究）
 - ③地域活性化に関する研究成果の地域への還元（地域貢献・政策提言）
 - ④地域活性化に関する国内外の研究ネットワークの構築（国内連携・国際交流）
- の4点を柱に据え、活動しております。

これらの活動を推進するために、下記委員会を設け、研究と交流を進めています。

・ 総務・企画委員会

役 割：学会の運営全般、研究大会、理事会等の運営

委員長：山本尚史

活 動：①学会規則等の整備

②部局間の調整

③その他、新規企画案の作成など

・ 広報・交流委員会

役 割：①学会の活動内容・成果を広く国内外に発信

②地域間交流、国際交流を推進

③地方創生セミナー・会員交流会等の開催

④会員増強

委員長：松本敦則

活 動：①ニュースレターの発刊

・ 研究推進委員会

役 割：①各種研究活動の推進

②研究大会を開催校と協働で企画・推進

委員長：村瀬博昭

活 動：①大会の企画運営

②地方創生セミナーの企画運営

・ 学会誌編集委員会

役 割：学会誌「地域活性研究」を年2回募集、査読、編集、発行

委員長：林靖人

活 動：①研究誌の発刊

②研究誌の諸規定の整備

(2) 2019年度活動実績ならびに予定(前回大会以降)

※敬称略

① 第11回研究大会

第11回研究大会(長崎県大村市)

会 期 : 日時 : 2019年9月13日(金)~15日(日)

会 場 : 大村市コミュニティセンター(大村市中央公民館) さくらホール

大会テーマ : 「大村湾を中心とした地域連携~多様性と国際性~」

実行委員長 : 園田裕史(大村市長)

参加者数 : 254名

② 理事会

2019年度第4回理事会

日時 : 2019年12月3日(火) 17:00-18:50

場所 : 東京工業大学キャンパス・イノベーションセンター3階 309

【同日の予定】

15時~ 正副会長会(正副会長)

17時~ 20時 理事会(理事)

【理事会次第】

■報告事項

1. 第6期運営方針 運営方針について

- ・各委員長の決定

総務企画委員会 : 山本理事(拓殖大)

広報交流委員会 : 松本理事(法政大)

学会誌編集委員会 : 林理事(信州大)

研究推進委員会 : 村瀬理事(奈良県立大学)

- ・理事公選制を経た理事会であるため、なお一層、本学会の発展に尽くしていただきたい。
- ・学会としては実践研究の重要性であると考えており、地域活性学の確立を目指す。
- ・地域活性学会は1,000名まで会員数が増加しており、これをさらに増強したい。
- ・実践者と研究者が同数で伸びていくことが望ましい。
- ・会長としては、清成先生、大宮先生の路線を引き継ぎ、会員を倍増させたい。
- ・国際交流に注力したい。東南アジア。学会の組織がピラミッドになっていると感じるため、逆ピラミッドに変えたい。
- ・支部活動に注力したい。

2. 正副会長会議について

3. 金沢大会について

4. 研究部会について

5. 学術参与について

6. 大村大会の収支について

2019年度第5回理事会

日時 : 2020年1月27日(月) 17:00~18:00

場所 : 高知工科大学 東京サテライト教室 308・309教室

■理事会次第

- 2020 年度研究大会（金沢）の進捗状況について
- 次年度以降の研究大会候補地検討について
- 支部会の活動について
 - ・関西支部研究会
 - ・北海道支部会
- 学会誌 vol.12編集委員会報告
- 論文投稿料の有無について
- 年度途中での新入会・当年度年会費の半額規程について
- 研究大会参加費について
- 3月30日地域活性学会地方創生セミナーについて

2019 年度第 6 回理事会

日時：2020 年 3 月 30 日（月）17：30～19：00

zoom にて遠隔開催

■理事会次第

- 2020 年度研究大会（金沢）の進捗状況について
- 新型コロナウイルスの状況に対応した来年度研究大会の開催の是非の判断時期等について
- 学会誌編集委員会報告
- 会員情報について（支部の区分けの基準について）

2020 年度臨時理事会

日時：2020 年 4 月 28 日（火）17：00～18：00

zoom にて遠隔開催

■報告事項

1. 選挙人名簿の確定作業の状況について（那須副会長より）
2. 電磁的方法による選挙のためのシステムの選定状況について

■審議事項

1. 理事候補者選挙管理委員の設置及び同委員の指名について
2. 理事会申し合せ
 - （1）理事候補者選挙管理委員会の役割に関する申し合わせ
 - （2）選挙人の確定に関する申し合せ
 - （3）委任状を電磁的方法により提出することを可とすることに関する申し合せ
 - （4）理事候補者被推薦人の資格に関する申し合せ
3. 細則の改正
4. 8/29 臨時総会の開催について

2020 年度第 1 回理事会

日時：2020 年 5 月 28 日（木）16：00～17：30

Zoom にて遠隔開催

【理事会次第】

1. 2019 年度決算報告
2. 2020 年度予算案
3. オンライン研究大会について
4. 東日本大震災後 10年特別大会について
5. 金融部会活動報告

2020 年度第 2 回理事会

日時：2020 年 7 月 2 日（火）17：00～18：50

Zoom にて遠隔開催

【理事会次第】

1. 第 1 2 回研究大会準備状況について
2. 東日本大震災特別大会実行委員会体制について
3. 5 月 2 8 日地方創生セミナーアンケート結果について
4. 地域活性研究 vol.13 進捗状況
5. 学会誌掲載論文等の J-stage 掲載について
6. 理事会、委員会、支部、部会等における会員情報の取り扱いについて

【審議】

1. 2020 年度予算案の一部修正について（事務局業務委託費の備考欄）

2020 年度臨時理事会

日時：2020 年 8 月 27 日（木）17:00～

zoom にて遠隔開催

■議題

1. 総会資料

③地方創生セミナー

○地域活性学会 第 19 回地方創生セミナー

日時：2020 年 5 月 28 日（木）18：00-20：00

テーマ「地域金融行政と地域の未来」

講師：遠藤俊英金融庁長官 地方創生セミナー<WEB 講演>

参加：205 名

対象：地域活性学会会員、金融関係の方、地域活性に関心のある方

④支部（エリア）活動

北海道

担当地域：北海道

代表：伊藤一

2020 年 3 月北海道部会

日時：3 月 7 日（土）15：00—17：00

会場：札幌大谷大学 社会学部 地域社会学科

報告者

- 1 地域活性を担う NPO の役割について 太田稔（札幌大谷大学）
- 2 地域医療の課題-医療資材流通の側面から- 伊藤一（小樽商科大学）
- 3 子どもを中心とした地域活性～園・学校の可能性～ 井内聖（学校法人リズム学園長）

※研究報告後懇親会

*開催を準備していましたが、コロナ感染のため会場が使えず、対面での開催は中止となりました。

東北

担当地域：青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島

代表：内山大史

【庶務・支部役員会関係報告】

令和2年8月18日：第1回支部役員会（2019年度活動報告について、2020年度事業計画について、2020年度予算について）

令和2年8月25日：第2回支部役員会（支部総会について）

【支部研究大会報告】

令和元年9月17日（火）、18日（水）の両日、産学連携学会東北支部等との共催により、秋田県カレッジプラザ大会議室にて「東日本カンファレンス in 秋田 2019」を開催した（参加者21名）。地域金融機関の地域貢献および知財金融と学金連携をテーマに金融庁日下智晴氏、特許庁各沼広樹氏のご講演ならびに、産学連携のあゆみと今求められることとして、株式会社ラテラ取締役CTO 荒磯恒久氏の講演をおこなった。2日目は、参加者から、それぞれの地域連携の取り組みや論功等の発表が6件あった。令和2年度においては北海道地区においてカンファレンス開催の予定としている。

関東

担当地域：栃木、群馬、山梨、茨城、埼玉、東京、千葉、神奈川

代表：関幸子（予定）

* コロナ禍の影響もあり、特段報告すべき活動は実施できていない。

東海(仮称)

担当地域：静岡、愛知、岐阜、三重

代表：鶴飼宏成（予定）

* コロナ禍の影響もあり、現中部支部としては、この間、特段報告すべき活動は実施できていない。ただし、これまで広範囲にわたる中部地区を分割し、支部活動をより活性化させるため、以下にあるとおり北信越支部新設の検討作業は継続中。

北信越(仮称)

担当地域：富山、石川、福井、長野、新潟

代表：池田幸應（予定）

* 現在支部設立に向けて、会員間で意見交換をさせていただいており、本年度2020年度末までに支部設立に向けての研究・交流の場を設定（開催）する予定。2021年9月10・11・12日開催予定の第13回研究大会（金沢大会）に向けて併せて支部の設置ならびに支部活動の活性化をめざしたい。

関西

担当地域：和歌山、滋賀、京都、大阪、奈良、兵庫

代表：橋本行史

・ 共同公開研究会「なにわ大阪の暮らしのおもしろさ～地域とのつながりを考える」

日時：2019年12月7日（土）13:00～16:00

場所：大阪府吹田市山手町3-3-35関西大学千里山キャンパス

・ 支部研究会

日時：2020年2月7日（金）18:30～21:00

場所：大阪府北区鶴野町1-5関西大学梅田キャンパス

〔2020年度事業計画〕

・第1回支部研究会（中止）

日時：2020年4月24日（金）

・第2回支部研究会

日時：2020年9月12日（土）（一斉支部会に合わせて開催）

10:30～11:30パネルディスカッション「検証と展望—コロナと地域社会」

（内容と報告者）

感染症と地方行政—国と地方の関係を中心として—（橋本行史・関西大学教授）

Withコロナ期の大学教育の在り方を考える（松本茂樹・兵庫大学教授）

Withコロナ期の価値観/社会・経済活動の変化と人口動態への影響を考える（大島博文・大阪成蹊大学教授）

（座長）樋口浩一・大和大学教授

11:30～12:00支部総会

・第3回支部研究会（コロナの関係で予定変更あり）

日時：2020年12月11日（金）18:30～（or12月12日（土）13:00～）

場所：大阪市北区鶴野町1-5関西大学梅田キャンパス

〔その他〕

・支部研究会は、原則3カ月に1回、金曜夕方（必要に応じて土曜午後）、関西大学梅田キャンパスで開催

・発表希望、参加案内等の問い合わせ先：橋本行史 hasimotk@kansai-u.ac.jp

中国・四国

担当地域：広島、岡山、島根、鳥取、山口、愛媛、香川、高知、徳島

代表：那須清吾（支部長）、事務局：佐藤暢

第6回地域活性学会中国四国支部会合（支部会・研究会）

日時：2019年12月7日（土）午後

場所：高知工科大学 永国寺キャンパス 地域連携棟

プログラム

13:00～受付

第1部 支部会

13:20～13:50 フリーな意見交換会（会員以外の方も聴講可能）

第2部 研究会

14:00～14:10 開会挨拶、趣旨説明等

14:10～15:40 基調講演&討論（詳細は調整中）

15:50～17:50 研究発表会

17:50 閉会

※終了後、有志による懇親会

九州・沖縄

担当地域：福岡、大分、佐賀、長崎、宮崎、熊本、鹿児島、沖縄

代表：綱辰幸（予定）

1. 九州・沖縄支部規程の整備、及び新役員の選任

未整備であった支部規程を整備する。また、新役員（支部長1名、副支部長2名、監事1名、事務局長1名）を選出する。

2. 支部総会の開催

支部総会を開催する。なお、今年度は研究大会で開催される「各支部によるオンライン検討会（9月12日）」の場を活用する。

3. 研究セミナーの開催

日時：2021年3月6日（土）10:00—12:00（予定）

会場：西南学院大学（福岡市早良区西新6-2-92）

内容：支部会員の研究報告、意見交換

なお、新型コロナ等により開催が困難な場合には、開催日時を含めてWEB会議形式での開催の可否を検討する。

4. 「論文サポート・スクエア」の開設

目的：論文のまとめ方、論旨の進め方、記述の仕方など、論文作成についてのサポートを行うことにより、学会員の研究活動の一助となることを目的とする。

対象者：論文歴が浅く、論文作成に戸惑いや困難を感じている若手学会員、アドバイスを求める機会が少ない社会人学会員（九州・沖縄地区以外の学会員でも参加可）

内容：インターネット（メール等）による個別アドバイス、論文添削指導等

⑤研究部会活動

温泉・健康サービス部会

部会長：館逸志顧問

温泉・健康サービス部会は、健康と温泉フォーラムとの共催で月例セミナーを開催していますが、3月以降コロナの関係で休止中です。環境省主催の新湯治チームに参加しており、また、年に一度ビッグサイトで開催するダイエット アンド ビューティー フェア 2020 に協力をしています。

離島振興部会

部会長：小島愛之助（公益財団法人日本離島センター専務理事）

* コロナ禍の影響もあり、特段報告すべき活動は実施できていない。

地域活性化メソドロジー研究部会

部会長：村瀬博昭（奈良県立大学）

地域活性化メソドロジー研究部会では、前年度に続き、地域活性化の多義性に関する検討を中心に活動を行った。「地域活性化」の言葉の意味は依然として多様であり、本学会においても明確に定義がされていない。社会では一般用語化している一方で、言葉の意味は統一されておらず、現在は意味を曖昧にしたまま多くの場面で用いられている。

スポーツ振興部会

部会長：御園慎一郎副会長

1. 交流活動

- ・ 6月24日 福岡県福岡市「食のダイバーシティ対応セミナー」協力支援
中村芳生氏（中村学園大学准教授、地域活性学会スポーツ振興部会）
- ・ 8月8~11日 新潟県三条市「次世代育成大学野球サマーリーグ」活動支援
<https://baseball.sfc.keio.ac.jp/summer-league/>
拓殖大学 准教授 松橋崇史氏（地域活性学会スポーツ振興部会）
- ・ 三重県いなべ市「元気みらい都市いなべ」へ向けて、一般社団法人 元気クラブいなべと交流活動<http://genkiclub-inabe.jp>

2. 研究発表活動

- ・ 9月1日 地域活性学会シンポジウム 食を通じた国際交流と地域活性化
「イスラム教徒のためのハラール対応の試みを通じて」

御園慎一郎氏（地域活性学会スポーツ振興部会長）

中村芳生氏（中村学園大学准教授、地域活性学会スポーツ振興部会）

- ・ 1月29日 金沢星稜大学 人間科学部 学術講演会

「ホストタウンによる地域活性化—レガシー形成のために求めるもの」
拓殖大学 准教授 松橋崇史氏（地域活性学会スポーツ振興部会）

3. 調査活動

- ・三重県いなべ市「元気みらい都市いなべ」の健康実態を調査と検討
現地調査並びにヒアリング・・・4回
部会打合せ並びに検討・・・・・・8回

地域おこし研究部会

2018年3月7日に都道府県単位での地域おこし協力隊の支援体制、人材確保の課題について部会の中心メンバーと岡山県の協力隊有志が集まりディスカッションイベントを実施。都道府県単位での支援体制のあり方や、卒業した隊員同士の連携など図っていききたい。

部会長 藤井裕也（NPO 法人 山村エンタープライズ代表）

副部会長 那須清吾（地域活性学会常任理事高知工科大学教授）

齊藤俊幸（地域活性学会評議員 地域再生マネージャー）

事務局 藤井裕也（地域活性学会員 NPO 法人代表）

部会事務局 小埜洋平（神石高原町地域おこし協力隊）

特別顧問 大宮登（地域活性学会元会長）

メンバー 藤井裕也（元美作市地域おこし協力隊）

村上勇太（神石高原町地域おこし協力隊）

小埜洋平（神石高原町地域おこし協力隊）

野口拓郎（元三次市地域おこし協力隊）

秋吉直樹（香川県地域おこし協力隊）

河内佑真（安芸太田町地域おこし協力隊）

官民パートナーシップ研究部会

部会長：根本祐二（理事：東洋大学教授）

副部会長：関 幸子（地域活性学会理事）

副部会長：舘 逸志（元国土交通省審議官）

引き続き、大村湾地域の活性化に向けて、長崎県、大村市、西海市及び地域商社等との協議を重ね、時期を得て具体的な事業につなげていく。

国際交流部会

部会長 吉川智教（元早稲田大学教授）

* コロナ禍の影響もあり、特段報告すべき活動は実施できていない。

ミュージアム・シティ構想研究部会

部会長：福留 強（NPO 法人 全国生涯まちづくり協会 理事長／聖徳大学 名誉教授）

・ 構成メンバー

理 事 宇津井 輝史

（元・東京商工会議所 常務理事／現・一般社団法人 日本文化教育推進機構 顧問）

理 事 小野寺 健

（株式会社 談広告 代表取締役／一般社団法人 日本文化教育推進機構 理事）

理 事 山中 靖裕（ユニバーサル・アドワークス株式会社 代表取締役）

理 事 片山 聖一（合同会社 DIPPS 代表社員）

理 事 齊川 満（株式会社 サイモンズ 代表取締役社長）

事務局長 田代 綾（株式会社 談広告／一般社団法人 日本文化教育推進機構）
事務局 松本 多喜子（株式会社 談広告／一般社団法人 日本文化教育推進機構）

* コロナ禍の影響もあり、特段報告すべき活動は実施できていない。

金融部会

部会長 小野浩幸（山形大学大学院教授、地域活性学会理事・副会長）
副部会長 穂川俊彦（あおぞら地域総研社長、地域活性学会監事）
山口省蔵（金融経営研究所代表、元日本銀行金融高度化センター副センター長）
事務局長 石川秀樹（サイバー大学教授、地域活性学会監事）

【第1回研究会】

日時：2019年11月28日

場所：第一勧業信用組合 大会議室

テーマ：「地域金融機関による地域プロジェクト推進事例の報告」

「地域創生に愚直に取り組む～リレーションシップバンキングに軸足を置いた但馬信用金庫の取り組み～」

講師：山口省蔵氏（金融経営研究所）宮垣健生氏・川上晃弘氏（但馬信用金庫）

その他：情報交換会

※25名の参加。

【第2回研究会（地方創生セミナー）】

日時：2020年5月28日

場所：WEB講演

テーマ：地域金融行政と地域の未来

講師：遠藤俊英氏（金融庁長官）

その他：オンライン講演会

* 205名の参加。

【第3回研究会】

日時：2020年6月11日

場所：WEB講演

テーマ：地域金融機関が金融を超える

無料の観光プラットフォームで持続可能な観光整備と地方創生を実現

講師：椋梨敬介氏（山口フィナンシャルグループ社長）

鳥居暁氏（スポットツアー社長）

その他：ZoomによるWEB情報交換会

【第4回研究会】

日時：2020年9月11日

場所：WEB講演

テーマ：地域金融機関による地域通貨戦略（仮）

共感資本主義社会の実現を目指す（仮）

講師：古里圭史氏（ひだしんイノベーションパートナーズ代表取締役）

新井和宏氏（株式会社 eumo 社長）

その他：ZoomによるWEB情報交換会

■政策提言

金融庁「地域金融機関の経営とガバナンスの向上に資する主要論点（コア・イシュー）～「形式」から「実質」への変革～（案）」に対して、2020年2月23日に金融部会として意見を提出しました。その結果、意見の一部が採用され主要論点（コア・イシュー）の一部が修正された。

SDGsを活かす持続可能な地域づくり研究部会

代表者：白井 信雄（山陽学園大学 地域マネジメント学部 教授）

【2019年9月設立後の活動報告】

1. 基本的考え方

人類の絶滅や地域の消滅に係る危機が進行するなか、1980年代により持続可能な発展という考え方が提示し、国際的なアジェンダとなってきたが、考え方が曖昧で必要な変革を進める推進力となり得ていなかった。そうした中、持続可能な発展に係る17のゴールと169のターゲットを明確にした持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals：SDGs）が2015年に策定された。SDGsは、「広汎性」、「普遍性」、「統合性」を志向し、環境面と経済面のみならず社会面を強調して作成されたことが意義深い。しかし、①SDGsのゴールやターゲットは縮小段階にある日本の地域課題に対応してない、②SDGsウオッシュと言われるように、SDGsを名乗っても、これまでの取組を正当化するだけでは何も変わらない、③そもそも持続可能な社会の考え方が地域主体に共有されておらず、地域の共通言語になりにくい、など、SDGsの不十分な点も指摘されている。SDGsが2030年までの世界及び日本の取組に影響力を持っていることは確かである。では、地域では、SDGsをどのように使えば、地域の取組の革新や社会転換により、持続可能な地域づくりを進めることができるのか。その議論を深め、あるべき方針、よき先進事例を整理して、地域活性化に取り組む主体に発信を行っていくために、本研究部会を設置する。

2. 活動内容

次の活動について、オンライン（fbのグループ、zoom会議1回）を活用して、意見交換を進めてきた。

（1）研究のテーマ

次のようなテーマを設定し、研究活動を行う。

- ①持続可能な地域づくりの規範、SDGsの評価、SDGs未来都市の評価
- ②持続可能な地域づくりにおいて重要な社会課題となる環境・エネルギー・福祉・防災等への取組と地域活性化の連関の実践
- ③現在及び将来の問題の根幹を捉えた地域からの社会転換の実践

（2）研究の進め方

次のような研究活動と情報発信を行う。

- ①関連する既往研究の整理と共有
- ②構成メンバーによる関連研究の実施（必要に応じた連携）
- ③オンラインでの意見交換、オフラインでの意見交換のための研究会の開催
- ④研究成果の学会での発表と意見交換（地域活性学会の研究大会）
- ⑤研究成果の論文化や書籍化

3. 現在までの活動成果と今後予定

現在までの検討を踏まえ、「SDGsを活かす地域づくりの原則に関する提言」をまとめた。これをもとにしたシンポジウムを9月の研究大会で行う。また、10月以降に、「SDGsを活かす地域づくりコーディネイト人材」をテーマにした研究を進め、人材開発セミナーの開催やそのテキストとなる書籍の作成を目指していく。

—「SDGsを活かす地域づくりの原則に関する提言」の目次—

はじめに

1. SDGsの経緯ゆえの特性を知る
2. アジェンダの重要な理念を踏まえる
3. SDGsの長所と短所を踏まえて活用する
4. セクター毎のSDGs活用の動向と課題
5. SDGsを活かす地域づくりの原則

（1）地域ぐるみで、大胆な転換を目指す

原則1 大胆な転換を実現する道具としてSDGsを活用する

原則2 広範な入口を活かし、地域主体の学習を促し、深い学びにつなげる

原則3 特に公益性を持つ農山村地域等が変革や転換の先導役となる

（2）持続可能な未来のビジョンを共有し、連環・根幹に踏み出す

- 原則4 地域主体が地域課題とあるべき地域社会の姿を共有する
 - 原則5 循環と共生への配慮を地域活性化につなげる
 - 原則6 多様な主体の共生の視点で考え、誰も取り残さない、公正・公平な地域を目指す
 - 原則7 問題間の連環を捉え、根幹にせまる、横ぐしプロジェクトをつくる
 - (3) 変革・転換に向けた実践を立ち上げる工夫を行なう
 - 原則8 参加主体にとっての市場的あるいは非市場的な実利を生み出す
 - 原則9 未来の世代にたいまつを受け渡す今日の若い世代に役割と場をつくる
 - 原則10 フロントランナーが動き出す参加をデザインする
 - (3) 大災害の経験を活かす
 - 原則11 リスクへの対応をSDGsのゴールに追加する
6. SDGsを活かす地域づくりを先導するアクションの提案
～「持続可能な地域づくりコーディネイター」の育成と支援

⑥研究誌「地域活性研究」(ISSN-2185-0623)

- <Vol.11> 発行日 2019 年 10 月 31 日 発行形式 Web 版で発行、紙媒体は国立国会図書館等に納本。
- <Vol.12> 発行日 2020 年 3 月 31 日 発行形式 Web 版で発行、紙媒体は国立国会図書館等に納本。
- <Vol.13> 発行日 2020 年 10 月 31 日 発行形式 Web 版で発行、紙媒体は国立国会図書館等に納本予定。

⑦ニュースレター

電子メールにて全会員に配信。2019 年 9 月総会以降No. 251～266 まで計 15 回発行。

(2) 会員の状況 (2020年8月26日現在・敬称略)

(単位：人)

会員種別	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度	2015年度
個人会員	790	807	772	738	703	669
学生会員	161	155	146	134	91	46
団体会員	14	18	22	20	20	19
合計	965	980	940	892	814	734

【団体会員】14 団体

企業・団体

株式会社生活構造研究所
せたがや自治政策研究所
全国ソフトウェア協同組合連合会
株式会社高取測量設計事務所
ダズリング・ナイン株式会社
公益財団法人東北活性化研究センター

市町村

伊達市（北海道）
錦江町 まち・ひと・MIRAI 創生協議会

大学

大谷大学図書館
沖縄大学地域研究所
高知工科大学
法政大学地域研究センター
松本大学
九州女子大学・九州女子短期大学

2. 第1号議案2019年度決算承認の件

地域活性学会 2019年度収支報告書

2019年4月1日～2020年3月31日

収入の部

単位＝円

	予算	決算	差額	備考
年会費収入	7,000,000	7,355,500	355,500	
大会参加費	1,800,000	1,492,500	-307,500	
大会開催地補助金等	600,000	600,000	0	
研究誌掲載・冊子収入	100,000	55,440	-44,560	
利息収入・雑収入	0	67	67	
合計	9,500,000	9,503,507	3,507	

支出の部

	予算	決算	差額	備考
大会開催費 ※	3,000,000	2,522,057	-477,943	第11回研究大会（大村市）
学会誌出版費	600,000	391,078	-208,922	学会編集委員会費用
e-システム導入運営費	129,600	129,600	0	2019年度より導入・運営開始
学会HPシステム開発費等	2,000,000	1,944,000	-56,000	HP作成（理事会承認済）
印刷費・通信費	432,000	551,370	119,370	サーバー費と更新作業費
セミナー部会費・支部活動費	1,000,000	82,840	-917,160	地方創生セミナー開催費、支部活動、部会活動への補助
送料	150,000	200,760	50,760	会員への各種送付物
会合費	20,000	20,100	100	会議費
消耗品費	100,000	175,907	75,907	封筒、事務局用消耗品
支払手数料	250,000	263,572	13,572	自動引落システム手数料、振込手数料等
事務委託費	2,730,000	2,851,032	121,032	年間収入×30%
旅費交通費	300,000	0	-300,000	
合計	10,711,600	9,132,316	-1,579,284	

収支

	予算	決算	差額
当期収支	-1,211,600	371,191	1,582,791

※大会関係支出

費目	金額	備考
謝金	20,000	パネリスト1名
旅費交通費	622,896	パネリスト・事務局
懇親会費	506,300	交流懇親会
運営費	524,721	会場看板制作費、Tシャツ、スタッフ弁当代
学生アルバイト	331,900	運営スタッフ
印刷費	516,240	大会論文集
計	2,522,057	

地域活性学会 2019年度決算報告書

貸借対照表

2020年3月31日現在

単位＝円

資産・負債別/科目		金額	備考
資産の部	流動資産	普通預金（みずほ）	1,782,930
		普通預金（三菱UFJ）	3,897,574
		未収入金	148,727
		流動資産合計	5,829,231
	資産合計	5,829,231	
負債の部	流動負債		
		流動負債合計	0
	負債合計	0	
正味財産の部		5,829,231	
（うち当期収支差額）		371,191	
負債及正味財産合計		5,829,231	

監 査 報 告 書

地域活性学会

会長 中嶋 聞多 殿

当学会の2019年4月1日から2020年3月31日までの収支報告書及び、2020年3月31日現在の貸借対照表は、当学会の状況を正しく示しているものと認めます。

2020年5月13日

税理士 永野 健生




監 査 報 告 書

地域活性学会
会長 中嶋 開多 殿

当学会の2019年4月1日から2020年3月31日までの収支報告書及び、2020年3月31日現在の貸借対照表は、当学会の状況を正しく示しているものと認めます。

2020年 8月 5日

監事

穂刈 俊彦 

監 査 報 告 書


地域活性学会

会長 中嶋 開多 殿

当学会の2019年4月1日から2020年3月31日までの収支報告書及び、2020年3月31日現在の貸借対照表は、当学会の状況を正しく示しているものと認めます。

2020年 8 月 6 日

監事

石川秀樹 

3. 第2号議案2020年度予算案・事業方針案承認の件

(1) 予算案

地域活性化学会 2020年度予算書(案)
2020年4月1日～2021年3月31日

単位：円

収入の部					
	2020年度予算	2019年度実績	2018年度実績	前年度実績比	備考
年会費収入	7,000,000	7,355,500	7,067,500	355,500	
大会参加費	500,000	1,492,500	1,692,000	992,500	web開催のため5000円×100人で仮計算
大会開催地補助金等	0	500,000	0	500,000	
研究誌掲載・租子収入	100,000	55,440	94,000	-44,560	研究誌掲載収入
利息収入・雑収入	0	67	84	67	預金利息
合計	7,600,000	9,503,507	8,873,584	1,903,507	

支出の部					
	2020年度予算	2019年度実績	2018年度実績	前年度実績比	備考
大会開催費	900,000	2,522,057	2,064,563	1,622,057	手帳簿印刷40万、zoom、謝金(GE-基研講演)旅費、学生アルバイト代、雑費
学会誌印刷費	600,000	391,078	555,450	-208,922	2019年度はVol.11 (Vol.12支払いは2020年度) - 編集委員会経費
e-システム導入運営費	0	129,500	0		
学会HPシステム開発費等	0	1,944,000	0		
10周年特別事業	0	0	1,913,219		
印刷費・通信費	230,000	551,370	2,910	321,370	サーバー費・更新作業費(2019年4月～9月¥432,000 10月～2020年3月¥99,000)
セミナー部会費・支部活動費	1,000,000	82,840	295,010	-917,160	支部活動、部会活動への補助
送料	200,000	200,760	107,844	760	会員への各種送付物
会費	40,000	20,100	55,950		
消耗品費	200,000	175,907	71,192	-24,092	封筒、事務用消耗品
支払手数料	250,000	263,572	231,701	13,572	自動引き落としシステム手数料、振込手数料等
事務委託費	3,000,000	2,851,032	2,662,050	-148,968	
名簿整備費	300,000	0	0	-300,000	
旅費交通費	300,000	0	0	-300,000	
合計	7,020,000	9,132,316	8,959,892	2,112,316	

収支			
	予算	2019年度決算	2018年度決算
当期収支	580,000	371,191	-86,308

(2) 事業方針案

1. これからの地域活性学会について（会長コメント）

私たちは、ウィズ/アフターコロナ時代に対応できる強靱かつ持続可能な学会をめざします。そのためには会員全員が安心して参加でき、会員の英知を結集した学会運営がおこなわれなければなりません。その有効なツールとして、他学会同様、DX(Digital Transformation)を推進いたしますが、同時に「地域」活性学会として、現地・現場、“場”へのこだわりはこれからも持ち続けてまいります。デジタルとリアルが融合したニューリアリティー社会の実現にむけて、改革すべき点は多々あると思いますが、ここではまず着手すべき重要な3点をあげておきます。

①理事会等は支部や研究部会活動の下支えにまわる体制(逆ピラミッド型組織)をめざし、権限移譲を促進する。

②実践家と研究者がタッグを組んだ実践研究を重視する姿勢を明確化し促進する。

③次世代をになう人財の発掘と育成に注力し、学会運営の世代交代を促進する。

会員皆様のご協力、どうかよろしくお願い申し上げます。

2. 研究大会の開催予定

大会名：東日本大震災後10年特別大会（山形県東根市（ひがしねし）/山形大学）

日時：2021年5月21日（金）～23日（日）

会場：東根市さくらんぼタクトクルセンター（山形県東根市中央一丁目5-1）

大会テーマ：「災害からのレジリエントな社会～東日本大震災などの経験を踏まえて未来の地域社会を展望する～」

実行委員長：小野浩幸（山形大学教授）

大会名：第12回研究大会（石川県金沢市/金沢星稜大学）

日時：2021年9月10日（金）～12日（日）

会場：金沢星稜大学（石川県金沢市御所町10-1）および金沢市内

大会テーマ：「地域活性とAuthenticity～過去・現在そして未来へ～」

実行委員長：池田幸應（金沢星稜大学教授）

3. 研究誌の発刊

「地域活性研究 Vol. 13、14」の発刊（2020年10月、2021年3月発刊予定）

4. エリア（支部）活動の充実

5. 地方創生セミナーの開催

6. 研究部会活動の充実

地域活性学会役員

任期:2021年総会迄

	役職	氏名	所属	委員会	エリア(支部)
1	特別顧問	清成忠男	法政大学		
2	特別顧問	大宮登	高崎経済大学		
3	顧問	館逸志	離島振興地方創生協会		
4	会長	中嶋聞多	信州大学		
5	副会長	御園慎一郎	大阪大学		
6	副会長	那須清吾	高知工科大学		中四国◎
7	副会長	小野浩幸	山形大学		
8	副会長	木村乃	関東学院大学		
9	理事	青柳一郎	内閣府		
10	理事	池田幸應	金沢星稜大学		(北信越◎)
11	理事	伊藤一	小樽商科大学		北海道◎
12	理事	内山大史	弘前大学		東北◎
13	理事	鶴飼宏成	名古屋市立大学		(東海◎)
14	理事	Emanuel Leleito	名古屋大学		
15	理事	岡本義行	法政大学		
16	理事	小野寺純治	岩手大学		
17	理事	久保田章市	浜田市長		
18	理事	黒瀧秀久	東京農業大学		
19	理事	斉藤俊幸	イング総合計画		
20	理事	佐藤暢	高知工科大学		
21	理事	嶋野武志*	長崎大学		九州沖縄◎
22	理事	関幸子	ローカルファースト研究所		関東◎
23	理事	永井真也	室蘭工業大学		
24	理事	西川洋行	県立広島大学		
25	理事	根本祐二	東洋大学		
26	理事	橋本行史	関西大学		関西◎
27	理事	林美香子	慶應義塾大学		
28	理事	林靖人	信州大学	学会誌◎	
29	理事	藤井裕也	山村インタープライズ*		
30	理事	前野隆司	慶應義塾大学		
31	理事	松本敦則	法政大学	広報・交流◎	
32	理事	松本茂樹	兵庫大学		
33	理事	村瀬博昭	奈良県立大学	研究推進◎	
34	理事	保井俊之	慶應義塾大学		
35	理事	山崎泰央	石巻専修大学		
36	理事	山本尚史	拓殖大学	総務・企画◎	
37	理事	山本祐子	法政大学		
38	本部理事	桂信太郎	高知工科大学		
39	監事	石川秀樹	サイバー大学		
40	監事	穂刈俊彦	あおぞら総研		

(順不同・敬称略) ◎委員長

* 嶋野様は2020年5月にご逝去されました。

4. 次回以降の研究大会開催校（予定）

大会名：東日本大震災後10年特別大会（山形県東根市（ひがしねし）/山形大学）
日時：2021年5月21日（金）～23日（日）
会場：東根市さくらんぼタクトクルセンター（山形県東根市中央一丁目5-1）
大会テーマ：「災害からのレジリエントな社会～東日本大震災などの経験を踏まえて未来の地域社会を展望する～」
実行委員長：小野浩幸（山形大学教授）

大会名：第12回研究大会（石川県金沢市/金沢星稜大学）
日時：2021年9月10日（金）～12日（日）
会場：金沢星稜大学（石川県金沢市御所町10-1）および金沢市内
大会テーマ：「地域活性とAuthenticity～過去・現在そして未来へ～」
実行委員長：池田幸應（金沢星稜大学教授）

地域活性学会

事務局（寺尾・五百蔵）

〒785-8515

高知県高知市永国寺町 6 番 28 号

高知工科大学 地域連携棟 4 階

社会マネジメントシステム研究センター内

TEL:088-821-7211

メール chiiki@mpd.ac.jp

URL <http://www.hosei-web.jp/chiiki>